

## 「JENESYS2023」第二十五回中国教育関係者代表団の記録

### 1. プログラム概要

【目的】本事業は「新しい学びと授業革新」をテーマに、中国の小・中・高等学校の教員並びに教育関係者を訪日招聘し、各種教育機関への訪問・視察等を通じて日本の教育について理解し、日本の教育関係者と交流するほか、包括的な対日理解を深めることを目的として実施しました。

【参加者】中国の教育関係者 30名

【訪問地】東京都、愛知県

#### 【日程】

#### ■ プレプログラム

2023年11月9日（木） オンライン事前オリエンテーション

#### ■ 招へいプログラム

2023年11月14日（火）～11月18日（土）4泊5日

日にち	概要
11月9日 プレプログラム	<b>【オンライン事前オリエンテーション】</b> ①主催者代表挨拶 ②随行事務局紹介 ③視察先関係者との交流 ④訪日日程説明 ⑤注意事項説明 ⑥アンケート・对外発信・アクションプラン説明 ⑦質疑応答
1日目 11月14日	羽田空港より入国 東京タワー・増上寺参観  <b>【歓迎会】</b>
2日目 11月15日	<b>【訪問・視察】</b> 青山学院中等部 ①キャンパスツアー ②校舎見学 ③教職員との懇談会  <b>【講義聴講】</b> 文部科学省ブリーフ ①ブリーフ「教育振興基本計画について」 ②質疑応答

<p>3 日目 11 月 16 日</p>	<p>愛知県へ移動 名古屋城参観</p> <p><b>【懇談会】</b> 愛知県の教育概要紹介、意見交換 「ラーケーションの取組について」 「ICT を活用した主体的・協動的な学びについて」</p>
<p>4 日目 11 月 17 日</p>	<p><b>【訪問・視察】</b> 豊橋市立羽根井小学校</p> <p>①校内視察 ②学校概要説明 ③質疑応答 ④給食体験</p> <p>東京へ移動 <b>【歓送報告会】</b></p>
<p>5 日目 11 月 18 日</p>	<p><b>【日本文化体験】</b> 茶道体験</p> <p>羽田空港より帰国</p>

## 2. 記録写真

	
<p>2023 年 11 月 15 日【訪問・視察】 青山学院中等部</p>	<p>2023 年 11 月 15 日【講義聴講】 文部科学省ブリーフ</p>



2023年11月16日【懇談会】  
愛知県教育委員会と懇談



2023年11月17日【訪問・視察】  
豊橋市立羽根井小学校での給食体験



2023年11月18日【日本文化体験】  
茶道体験

### 3. 参加者の感想（抜粋）

◆この交流を通して、日本の生徒は小学生から中学生まで、とても熱心で礼儀正しく、大らかに生き生きとしていることがわかった。学校での学習は、生徒にとって楽しいことのように感じた。学校訪問を通じて、日本のさまざまな教科での ICT 技術の応用が非常に成熟しており、教師と生徒はこの情報技術をよりよく使用して教え学ぶことができていることがわかった。

◆数日の訪問交流を通して、日本の長い歴史と文化、そして現在の教育理念について、より理解を深めることができた。文部科学省の講義、愛知県教育委員会の講義、日本の小中学校訪問など、とても刺激を受け、得るものがあった。中でも私が最も感銘を受けたのは、日本が提唱する、個人差を尊重し、自主的で双方向の深い学びを促進し、生徒一人ひとりが成長できるようにする教育理念である。日本の生徒は成長の機会が増え、単に点数で判断する評価システムに縛られることがなく、この教育理念のもとで、生徒は自分の特性に合った、より多様な発展を遂げることが

できる。この人間本位の教育理念と、この考え方のもとで、日本の教育者一人ひとりが努力し探求してきたことは、私たちの学びに値するものだと感じた。

- ◆日本の教育はインクルーシブでオープンで、一人の子供も見放さず、子供の個性的で協調的な発達を尊重し、あらゆるレベルのカリキュラムがとても多彩で、さまざまな分野が統合され補完し合っているため、私は多くの刺激を受け、自分の所属する学校には、まだまだたくさんの改善の余地があると考えさせられた。また、先生方の子供一人一人への気遣いや特別な指導を存分に感じ、教師の大きな責任と神聖な使命を実感した。日本では、基礎教育の情報化が普及し、資源も豊富だが同時に、フィードバックの仕組みが多様化していないことや、的を絞った評価の仕組みがないことなど、いくつかの欠点もあると感じた。
- ◆視察・交流の中で、青山学院中等部と豊橋市立羽根井小学校は、生徒の主体的な学び、相互学習、深い学びの能力を養うことに大きな注意を払うとともに、幼い頃から生涯の計画を立て、問題に直面したときに問題を解決する能力とスキルを向上させることにも注意を払っていると感じた。日本の教育は、小学校1年生から、生徒が興味を持っている問題を課題という形で学習させ、それを解決するために必要な重要なスキルを学んでいる。自立した生活力、料理、家事等の能力に注意を払い、子供たちの生涯にわたる発達のための良い基盤を築いており、興味を育てることに重点が置かれていることを学んだ。

#### 4. 受入れ側の感想（抜粋）

- ◆日本の授業に関わることに質問を受け、それに答えながら中国ではどうかと会話を広げることができた。また、タブレットを使ったICT教育について、関心の高さを感じた。学校給食についても関心が高く、制度や実際の様子など、日本との違いを知ることができた。教員の勤務状況や環境面でも話が広がり、やりたいことをやればやるほど、勤務時間が長くなるなど、共通の悩みがあることを知った。中国の先生方も日本の先生方も、子どもたちの教育に責任と使命感を持ってあっていることがはっきりわかり、とても有意義な時間となった。
- ◆説明に熱心に耳を傾け、多くの質疑を行う様子から、教育に対する熱意を感じた。また、学校視察で授業の様子を見たり、実際に子供を前にした際の振る舞いなどから、国は違えど子供を思う心は共通なんだと感じた。
- ◆国によって抱えている問題の違いがある事に気づき、学力だけではない人格形成を視野に入れて、教育に携わろうとしていることは国を超えても同じ大切なことだと感じた。

## 5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等



11月15日（水）中国教育関係者代表団は功高中等部へ来校されました。  
参加されたのは20～40代の比較若い世代の教員方で、それぞれの専門分野も多岐にわたりました。

この企画は、「新しい学びの推進事業」の一環として、JENESYS2023の第一弾として、今年度中～来年度にかけての交流活動を通じて日中関係者を結びつけ、日本の教育関係者との交流などを通じて日中関係の促進を図りつつ、日中の友好関係を強化することを目的とした事業です。

代表団のみなさまには、中等部授業、授業見学のほか、本学キャンパス内施設、作業場見学への参加、そして、3時間授業の様子を子どもたちの発表・観察見学していただき、4時間授業には本学教員との懇話会の場をもちました。

懇話会では、事前の打ち合わせ通り進んでおりましたが、思わぬ展開もあり、その場面に臨み対応も多くの「気づき」を得られたようでした。

先般の研究会訪問プログラムは、集まってくださった皆様に対し、「次世代を育む者」として、日中関係の強化にもつながるという思いが込められておりましたが、期待以上に盛り上がり、多くの気づきを得ることができました。

長く続いた学びの場もようやく閉幕に近づいてきています。  
当校、およびご来校いただいたごに感謝として大層嬉しく思います。

来年も引き続き、同じ「教育」を志す者として、ともに教育の未来について考え、ともに学び、交流の促進のめざし、関係強化を続けてまいります。

### 2023年11月16日（青山学院中等部 ホームページ）

#### 「外務省抛出日中交流事業～第25回中国教育関係者代表団 中等部へご来校～」

11月15日（水）に20～40代の若い世代の教員からなる「JENESYS2023」第二十五回中国教育関係者代表団が、中等部へ来校。中等部礼拝、校舎、授業見学や懇談会を実施したことを紹介。



首页 > 友好関係

#### 駐日本国大使館公使張漪波出席中国教育工作者代表団の訪日歓迎会

2023-11-16 09:08

11月14日、駐日本国大使館公使張漪波出席中国教育工作者代表団の訪日歓迎会。代表団長、中日友好協会副会長張寧萍及全領代表、日中友好協会理事小川正史、外務省北米局長一宮隆徳副官出席。



張漪波表示、今年是中日和平友好協定締結40周年、中方愿同日方共同努力推动两国领导人达成的各项重要共识，深化交流合作，密切人员往来，为中日关系改善与注入活力，教育交流是中日人文交流的重要组成部分，也是促进两国民心相通的重要抓手，期待大家积极介绍当代中国教育改革创新发展，深入了解日本基础教育的有益经验，为两国两国交流合作发挥积极作用。



张宁萍副官表示，中日两国友好关系源远流长，两国教育交流合作为两国人民相互理解增进友谊作用，希望通过此次活动，日本社会以及教育界可以更加全面的了解，助力两国人文交流合作和互利共赢发展。



小川理事長は歓迎代表団を歓迎し、代表団此行が東京、愛知等地多所中小、希望大家积极开展交流互鉴，搭建更多友谊桥梁。



### 2023年11月16日（中華人民共和国駐日本国大使館 ホームページ）

#### 「中華人民共和国駐日本国大使館張漪波公使参事官が中国教育関係者代表団の訪日歓迎会に出席」

張漪波 中華人民共和国駐日本国大使館公使参事官の挨拶と小川正史 公益財団法人日中友好会館理事長の挨拶を紹介。

## 6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表

	
<p><b>【訪日中の学び】</b> 先生方のプロ意識に深い印象を受けた。日本の生徒による ICT 技術の活用状況の視察や、ラーケーションなど、日本の教育行政の教育理念を理解することができた。</p> <p><b>【アクション・プラン】</b> 今回の訪日の経験を、家族や友人、学生と共有したい。</p>	<p><b>【訪日中の学び】</b> 日本が提唱する、個人差を尊重し、主体的・協働的な学びを促進し、生徒一人ひとりが成長できるようにする教育理念に感銘を受けた。</p> <p><b>【アクション・プラン】</b> 日本で見たり感じたりしたことを、家族や友人、学生と共有し、日本で学んだことを中国で実践していきたい。</p>

実施団体名：（公財）日中友好会館